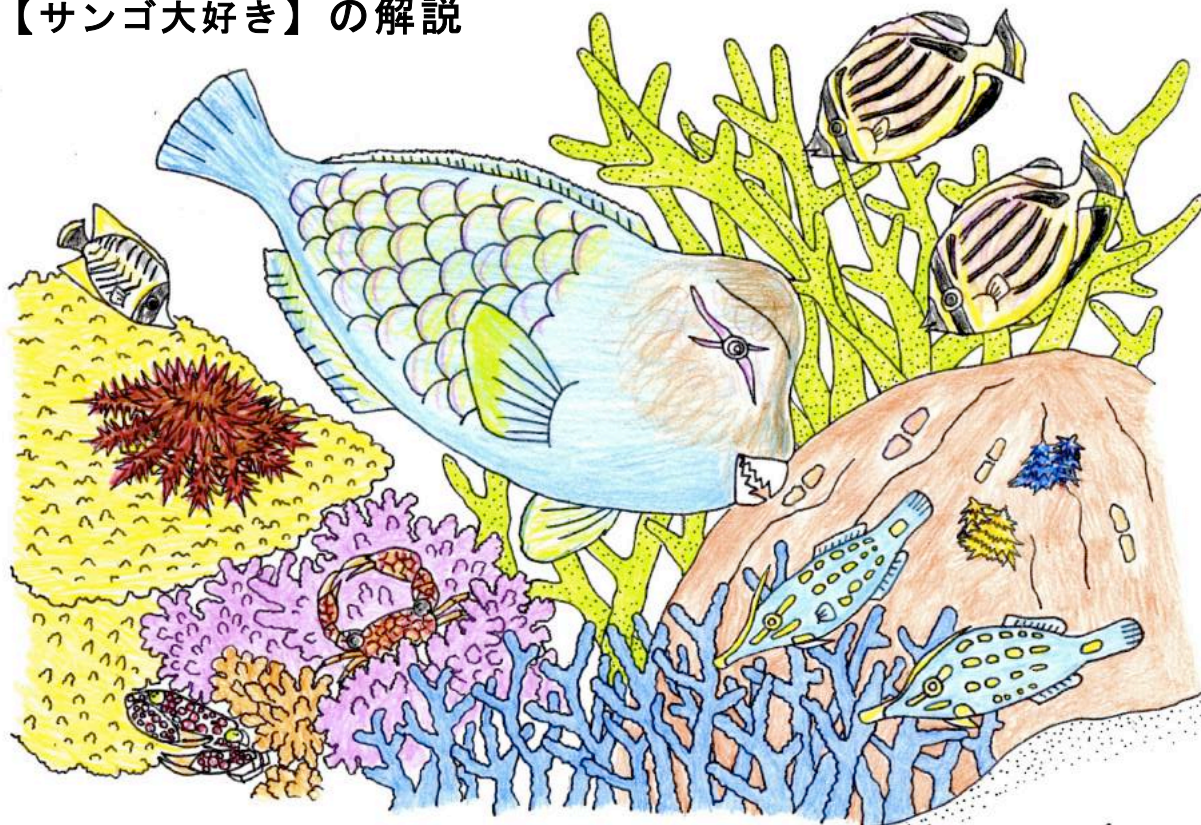




サンゴぬりえ

【サンゴ大好き】の解説

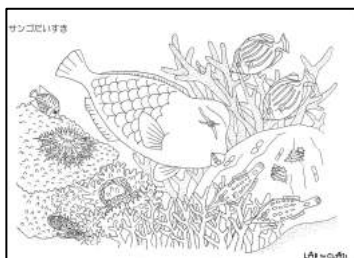


LAB to CLASS

◆テーマ

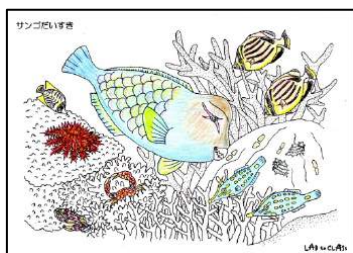
サンゴは、サンゴ礁域に生息する生物たちの隠れ家や住処になるだけでなく、重要な食べものでもあります。栄養の少ない熱帯亜熱帯域の海では植物プランクトンの発生は、あまり多くありません。サンゴは体内に褐虫藻という植物を共生させて、光合成の産物である炭水化物をもらって成長します。そして自身が他の生きものの餌となる他、サンゴが出す粘液もまた小さな生きものたちの餌となり、大切な栄養源となっています。この「ぬりえ」では、サンゴ礁生態系においてサンゴが食物連鎖の重要な位置にあること、さらに、生物の口や体型は餌を食べるために都合よくできている（適応）ことを学びます。

◎解説の例



◆絵の説明：共通項は“サンゴを食べる”

この絵に描かれている生きものたちに“共通していること”は何だか分かりますか？　じつは、みんなサンゴを食べるのです。　どのようにして食べるのでしょうか？　サンゴを食べるのにちょうどいい口の形、体の形はどのようになっているのかな？　じっくりと見ていきましょう。

**◆第一段階：いろいろな口と食べ方がある**

1) サンゴ礁の海ではお馴染みの、チョウチョウウオやカワハギの仲間。そして、体に“くの字”のラインが入っているヤリカタギ、ななめに線があるミスジチョウチョウウオ、点てん模様のテングカワハギ。どれも、口が小さくとんがっていますね。この口でサンゴのポリプをツンツンつついて食べます。まずこの魚たちをぬりましょう。

●ミスジチョウチョウウオ／ヤリカタギ／テングカワハギ

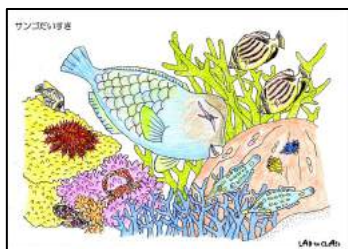
2) カラフルな色が特徴のブダイの仲間は、オウムのくちばしに似た歯を持っています。この歯はとても硬く、サンゴを骨ごとガリガリと食べることができます。ブダイがサンゴをかじった歯形がありますね、そこだけうすいピンク色にぬりましょう。おでこがでっぱっているカンムリブダイは、ブダイのなかでもとくにサンゴが大好きです。

●カンムリブダイ

3) サンゴの枝の間にすんでいるサンゴガニの仲間は、足に生えている細かい毛にサンゴの粘液をつけて、それを口に運んで食べます。網模様のアミメサンゴガニ、水玉模様のオオアカホシサンゴガニをぬりましょう。

●アミメサンゴガニ／オオアカホシサンゴガニ

4) サンゴの天敵といえば、体じゅうにある棘に毒をもつオニヒトデです。では、オニヒトデはどのようにしてサンゴを食べるのでしょうか？ ヒトデの口は、体の下側の中央にあります。そのため、オニヒトデはサンゴに覆いかぶさり、なんと“口から胃袋を外に出して”サンゴを消化液で溶かしながら食べてしまいます。オニヒトデがいなくなった後には、まっ白なサンゴの骨だけが残ります。

●オニヒトデ**◆第二段階：“食べものになる” サンゴをぬろう**

5) サンゴは、こんなにもいろいろな生きものたちの食べものになっているのですね。最後に、サンゴや海の色をぬってください。青、紫、黄色、ピンク、茶色、カラフルなサンゴ礁に仕上げてみましょう。

◆まとめ：口を見れば、食べている物がわかる？！

サンゴは、海の生きものたちにとって“大切な食べもの”でもあります。そして、生きものたちは“餌が食べやすいような口の形をしている”ことにも気づけたでしょうか（これを「適応」といいます）。いろいろな形がありましたね。口の形を見れば、何を食べているのかだいたい想像ができます。今度海に行ったら、生きものたちが何をどのように食べているのか…じっくり観察してみてくださいね。